

01 鶴岡商工会議所新春記念
青年部と役員との座談会

07 年頭挨拶 会頭 上野 雅史
令和7年鶴岡商工会議所

新年祝賀会・講演会・交流会

08 「チャレンジする事業所紹介
株式会社ベスト」

各種支援策の「」案内

10 TCCI NEWS & Information

21 景況調査結果報告

22 Business Box

2025
冬号

鶴岡

No.502

鶴岡商工会議所報

鶴岡商工会議所



LINE
公式アカウント

ID:@751kwyrd

経営に役立つ情報を
発信します!

縮小する社会と向き合う——
今、我々にできることはなにか



鶴岡商工会議所新春記念
青年部と役員との座談会

鶴岡地域経済の現状と課題 そしてこれからを語る



地域経済をどう支えるか 鶴岡の魅力をどう広めるか

一同 新年あけましておめでとうございます。

高橋 初めに上野会頭から、基調となるご意見についてお話を願いします。

上野 商工会議所内では毎月様々な議論が行われていますが、青年部皆さんと直接の対談は初めてではあります。人口減少は避けられない現実ですが、その中で地域経済が自立する方法を考える必要があります。部会でも具体的なプロジェクトを実施することについてのご意見があがりましたが、地域の計画に若い方のアイデアを取り入れることが重要です。人口減少は避けられない現実ですが、その中で地域経済が自立して稼げる方法を考えていく必要があります。

また、鶴岡には素晴らしいブランドや商材がありますが、我々地元の人々がその魅力を十分に理解していない可能性があります。鶴岡サイエンスパークまつりやユネスコ食文化創造都市認定10周年記念のつるおかふうどフェスタのようなイベントを通じて地域の魅力を発信しています。

また、鶴岡には素晴らしいブランドや商材がありますが、我々地元の人々がその魅力を十分に理解していない部分もあります。これらをどう伝えていくかが今後の課題であり、青年部のみなさんのお考えをぜひお聞かせいたいと思います。

地域経済の現状について、商工会議所でのアンケート結果では、原材料費の上昇や人手不足、顧客ニーズの多様化に対応する難しさが指摘されています。また、事業承継の問題が後継者を決められていない現状があり、廃業するケースが増えてきています。この問題は人口減少と密接に関連しており、今後の地域経済にとって深刻な課題です。我々として地元で営むものとして何かができる事と、少しでも良くする方法はないのかということについてご意見をお

縮小する社会と向き合い、地域の目指す方向性を描く。
次代を担う商工会議所青年部のメンバーと役員が議論しました。

願います。

特に、鶴岡は「消滅可能性自治体」といわれおり、この流れを少しでも止める方法を考える必要があります。

またとおり、若い事業者の皆さんの方の考え方や現状をお伺いするため、青年部会長の小池さんから、青年部の現状も含めてお話をいただければと思います。

小池 今年度、青年部活動のスローガンを「すこし先の未来を創る」として、さまざまな活動を行ってきました。

行事には毎年参画しており、単独事業としては、市の担当者をお招きし、ふるさと納税の勉強会を実施し、返礼品の造成にチャレンジしています。

また、今年度は3回目となるつるおか麺フェスを、ぎんざ秋まつりとコラボし、多くの県内の人气ラーメン店が出店し、盛況に行われました。2回目となる鶴岡サイエンスパークまつり、企業の出展数は増加し、天候には恵まれませんでしたが、たくさんの方の協力を得ることができました。

今年の活動としては、新年交流会をO.B会と共に開催しますが、9月12・13日には日本商工会議所青年部(YEG)の東北ブロック大会が控えており、この大会に向けてO.Bとの

座談会参加者



会頭
上野 雅史
(株)庄内銀行 名誉顧問



青年部会長
小池 健太郎
小池不動産事務所 副代表



青年部専務
秋山 和宏
やさいろ 代表



青年部副会長
丸山 剛嗣
東京海上日動バーネーズ東北
提携代理店 代表



副会頭
佐藤 祐司
鶴岡信用金庫 理事長



副会頭
阿部 広弥
阿部多(株) 代表取締役



副会頭
金野 隆行
(株)ARROWS 代表取締役



副会頭
佐藤 友和
(株)佐藤工務 代表取締役



副会頭
阿部 広弥
阿部多(株) 代表取締役



副会頭
平藤 泰世
三井住友海上
エイジンシーサービス(株)
ラウンジ我逢人 オーナー



副会頭
長南 邦彦
(株)長南牛舎
代表取締役



専務理事
高橋 健彦
司会

が鶴岡で開催される予定で、県内外から約1,500人の参加が見込まれていますが、移動時間の長さが課題で、交通の便が改善されると嬉しいですね。

秋山 仕事は「やさいろ」という青果物販売を営んでおり、庄内柿くさん来ていて、競りをしてもしてもらえないといふほど時間がかかるつで、栽培技術の対応や品種改良が追いつかないといふほど時間がかかり付いていたそうです。物量は12・13年前に比べ1／2ぐらいではないであります。昔は庄内柿くさん来ていて、競りをしてもらえないといふほど時間がかかるつで、栽培技術の対応や品種改良が追いつかないといふほど時間がかかり付いていたそうです。物量は12・13年前後はより一層減るだろうと言われています。

今後、更に市場規模が縮小し、今

おり、このような状況を打破するた

めには、県外に向けてのPR強化が重要だと感じています。たとえば、河北町のように東京などの首都圏に鶴岡市独自のアンテナショップを開設することはできないでしょうか。地

域産品のPRにとどまらず、首都圏との交流もでき、将来的に鶴岡に戻

りたいと考える人々とのつながりを築くことや、観光の発信基地にもなります。それから、ふるさと納税の活用も情報発信やPRに効果が大きいと思

ります。特産品は季節限定で販売さ

れることが多いため、加工品であれ

ば1年間を通して販売できます。余

りのクラッセのような加工施設を借

りられる施設があれば、例えば、メロ

ンを使つた加工品や、地元の飲食店

と連携したメニューのレトルト化を

進め、東京などに販売するという取

り組みもできると思います。

秋山 仕事は「やさいろ」という青

果物販売を営んでおり、庄内柿く

にはまだ豆や豆やメロンなど特産物

が多くありますのでより多くの人

に知つていただきたいと考えています。

青果物販売業の業界としての課

題は、まず市場での物量が減少して

いる点があげられます。昔は庄内柿

くさん来ていて、競りをしてもして

もらえないといふほど時間がかか

つで、栽培技術の対応や品種改良

が追いつかないといふほど時間がかか

つでした。物量は12・13年前後はより一層減るだろうと言われています。

今後、更に市場規模が縮小し、今

おり、このような状況を打破するた

めには、県外に向けてのPR強化が

重要だと感じています。たとえば、河

北町のように東京などの首都圏に

鶴岡市独自のアンテナショップを開

設することはできないでしょうか。地

域産品のPRにとどまらず、首都圏に戻

りたいと考える人々とのつながりを築くことや、観光の発信基地にもなります。それから、ふるさと納税の活用も情報発信やPRに効果が大きいと思

ります。特産品は季節限定で販売さ

れることが多いため、加工品であれ

ば1年間を通して販売できます。余

りのクラッセのような加工施設を借

りられる施設があれば、例えば、メロ

ンを使つた加工品や、地元の飲食店

と連携したメニューのレトルト化を

進め、東京などに販売するという取

り組みもできると思います。

秋山 仕事は「やさいろ」という青

果物販売を営んでおり、庄内柿く

にはまだ豆や豆やメロンなど特産物

が多くありますのでより多くの人

に知つていただきたいと考えています。

青果物販売業の業界としての課

題は、まず市場での物量が減少して

いる点があげられます。昔は庄内柿

くさん来ていて、競りをしてもして

もらえないといふほど時間がかか

つでした。物量は12・13年前後はより一層減るだろうと言われています。

今後、更に市場規模が縮小し、今

おり、このような状況を打破するた

めには、県外に向けてのPR強化が

重要だと感じています。たとえば、河

北町のように東京などの首都圏に

鶴岡市独自のアンテナショップを開

設することはできないでしょうか。地

域産品のPRにとどまらず、首都圏に戻

りたいと考える人々とのつながりを築くことや、観光の発信基地にもなります。それから、ふるさと納税の活用も情報発信やPRに効果が大きいと思

ります。特産品は季節限定で販売さ

れることが多いため、加工品であれ

ば1年間を通して販売できます。余

りのクラッセのような加工施設を借

りられる施設があれば、例えば、メロ

ンを使つた加工品や、地元の飲食店

と連携したメニューのレトルト化を

進め、東京などに販売するという取

り組みもできると思います。

秋山 仕事は「やさいろ」という青

果物販売を営んでおり、庄内柿く

にはまだ豆や豆やメロンなど特産物

が多くありますのでより多くの人

に知つていただきたいと考えています。

青果物販売業の業界としての課

題は、まず市場での物量が減少して

いる点があげられます。昔は庄内柿

くさん来ていて、競りをしてもして

もらえないといふほど時間がかか

つでした。物量は12・13年前後はより一層減るだろうと言われています。

今後、更に市場規模が縮小し、今

おり、このような状況を打破するた

めには、県外に向けてのPR強化が

重要だと感じています。たとえば、河

北町のように東京などの首都圏に

鶴岡市独自のアンテナショップを開

設することはできないでしょうか。地

域産品のPRにとどまらず、首都圏に戻

りたいと考える人々とのつながりを築くことや、観光の発信基地にもなります。それから、ふるさと納税の活用も情報発信やPRに効果が大きいと思

ります。特産品は季節限定で販売さ

れることが多いため、加工品であれ

ば1年間を通して販売できます。余

りの

流人口で30万人を目指すネットワーク作りが大事なのではないでしょうか。

どんな状況でも
前向きに変化を受け入れ、
新しいチャンスを見つける

阿部 私も他の皆さんも抱えていらっしゃる悩みと同じような悩みを持つております。現在抱えている問題は異常気象や少子高齢化など多岐にわたりますが、私たちの範囲でできることを考えていかなければならぬと思います。



いざ秋まつり×つるおか麺フェス2024

金野 今年度は東北ブロック青年部連合会の副会長として、来年度の東北ブロック大会大會長の職をお預かりしております。私からは、ブロック大会の進捗と、地域の人口減少についてお話をさせていただきます。

まず、ブロック大会についてですが、42年ぶりに鶴岡で開催されることが、42年ぶりに鶴岡で開催されることとなります。鶴岡でこれほどの規模の催事が行われるのは初めての経験であり、参加者は全国から集まるため、どのように対応するかについて多くの課題がありました。特に、大懇親会の会場となる武道館の利用については、上野会頭をはじめ皆様にご尽力いただきました。これから全国から来る経営者や地域のオーナンリーダーの方々に鶴岡を知つていただきたいのですが、自分たちが鶴岡のことをあまりよく知つていないことを一番痛感しております。さらに訪れたくなるような大会にするために、メンバー一同で作り上げていきたいと思います。私たちの目標は、この大会を通じて、参加者が鶴岡で新たな発見をし、また来たい、鶴岡で何かしたいという気持ちになつてもらうことであり、この方々も関係人口ではないかなと思っています。

次に、人口減少についてですが、私は二昨年18年ぶりに4人目の子どもが生まれました。子育てをしながら、

交流人口東北ナンバーワン
を目指して

A black and white photograph capturing a bustling indoor scene, possibly a trade show or a festival. The space is filled with numerous people of various ages, some appearing to be visitors and others staff or exhibitors. In the background, there are several large white tents or booths, each with its own signage and displays. The architecture features a high ceiling with a grid of support beams and skylights, allowing natural light to illuminate the area. The floor is a polished concrete surface.

言つて いますが、それで 人手不足が 加速し、人が 来ない から 給料を 上げなければならず、企業の 負担が 増すと いう 負の 循環になつています。特に 建築業界では、人件費や 物流の 関係で 資材価格の 上昇が 続き、建築費用が 高騰し、住宅の 新築着工数が 減少し ています。

食と観光の魅力発信
移住者が地域に

満感して
育むた
元の文化
に大切
で、地域の自然や歴史的遺産をもつ
と外に向けて発信できたらいいなと
思います。私も、まだ行ったことが無
い湯殿山に今度連れて行つてもらう
ことにしていますが、なかなか行く機
会は無いけれど魅力はたくさんある、
そんなことを都会の人々や県外
の人々に、発信していくことも重要



つるおかふうどフェスタに青年部が出展

ていることに驚きました。例えば、長井市にできた「くるんと」や、寒河江市の「さくらんぼ子どもキャンパス CLAAPIN SAGAE」など、どちらも無償で利用でき、駐車場には県外ナンバーの車が多く見られます。こうした施設は、子育てをする親たちにとって大きな魅力となるのではないでしょうか。施設整備は簡単には出来ませんが、地域の青年団体と連携して交流人口東北ナンバーワンを目指すような取組みが重要だと考えてています。

効率化され、職人は半分の工期でで
きるようになつたことから、限られ
た職人の数で2倍の仕事ができるよ
うになりました。変化しているとき
は新しい今までにないチャンスがあ
り、発想の違いで何か出来ることはな
いか、常に社員みんなで考えていました。
食料の関係では、全国の自給率は
38%に過ぎませんが、山形県は全国
3位の14.5%と高い自給率を誇つ
ており、有事の際は非常に強みにな
る。国の政策としても食料品は大事
にし様々な支援をしています。食料
品に限らず様々な事業への補助金が
ありますが、知らない、使い方が分か
らないという声も聞きます。うまく
活用できればDXや効率化に結び付
けられるので、事業者とつなげられ
る仕組みがあればなと思います。

最後に、地域活性化について。私の
息子が帰郷して、地元の良さを再認
識しました。鶴岡の素晴らしさを知

皆さんからこれからの展望や、どの

では無いでしょうか。



増えると国からの交付金が減らされるため、このように地方自治体が利益を上げても、その税収が地方に戻らない仕組みは問題です。

それから秋山さんの話に関連して、例えば、柿の価格があまりにも安いままでは、柿の生産者が減り、将来的に柿の生産者がいなくなってしま

くようなお話をいただきました。
今のご発言を受けまして、佐藤副会頭と長南副会頭からアドバイスをいただければと思います。

佐藤友 消滅可能性自治体から脱した三川町では、金野さんがおつしやつた子育て支援や遊び場の無償化の取り組みでは、鶴岡市にはない特徴として第一子に10万円、第三子に50万円の補助金を支給していますが、鶴岡の財政では難しい規模の支援です。また、今の社会では核家族化が進んでおり、昔のように家計を一世帯で支え合つたり、祖父母が子育てを手伝つたりすることが少なくなっています。この変化が少子化を加速させる一因だと思います。

また、工業団地は地域経済に貢献しているものの、税収が東京本社に吸い上げられ、地域に還元されない現実もあります。工業生産高が5,800億円あっても、税収は市民税とござまり、法人税は他の市町村に取

インフラ整備がもたらす
地域の活力、若い力への期待

平藤 三井住友海上の直資代理店に勤務し、昨年1月にラウンジを開業しました。

地域の展望として、私が一番思つてるのは、子どもたちが鶴岡に帰つてきたいと思えるまちづくりです。私の息子は現在進学で埼玉県に住んでおり、最初は都会に夢中でしたが、鶴岡の良さを少しずつ感じるようになり、最近は食べ物、特に山形の芋煮が恋しいと言つて帰省を楽しみにしています。食に関する要望が多いのですが、地元の特産物について、私は東京から山形に来て18年になりますが、やつぱり食べ物がすごく美味しい。しかし実家の地域では新潟産のお米が流通しており、山形はもつたいないなと感じることがあります、山形のお米をはじめとした特産物をもっととを平藤さんと金野さんからお話しいただければと思います。

また、観光資源の情報発信も大切で、地域の自然や歴史的遺産をもつと外に向けて発信できたらしいなと思います。私も、まだ行つたことが無い湯殿山に今度連れて行つてもらうことにしていますが、なかなか行く機会は無いけれど魅力はたくさんある、そんなことを都会の人々や県外の人々に、発信していくことも重要

では無いでしょうか。起業支援については、私自身も商工会議所の青年部を通じて多くの刺激を受け、色々な仲間から支援ることができました。経営する側になると様々な課題もありますが、仲間とうちの会社はこうだよ、といった話ができることがあります。先日、花屋をオープンさせた方にお声がけし青年部に入会いただきましたが、女性の起業家を応援していくたいと強く思っています。若い人が自分のやりたいことを実現できるよう、自分も未熟ですが経験を伝えていければいいですね。地域イベントの開催については、鶴岡天神祭の実行委員会では、ブルーインパルスを呼びましたが、伝統を大事にしつつも、若者が参加したくなるような魅力的なイベント作りを目指していきたいです。

最後に、移住支援ですが、私自身が18年前移住してきた際、鶴岡市の移住者の集いに参加して仲良くやつていましたが、段々1年で転勤など、仲間内で残るのは自分だけといった経験があります。そこから子育てサークルに行くようになりましたが、

期待いたします。最後に、YEGとして、地域活性化に向けた活動を続けていることにあります。まちづくりは大いに敬意を表します。まちづくりはYEGのような若い方々の力が重要であり、今後の更なるご活躍に寄せることが必要であり、そのような店づくりはどんどん進めてもらいたいですね。

無ければまちは発展しないと思います。地域のインフラ整備も重要な課題です。特に、高速道路の整備が遅れ、鶴岡市や酒田市が抱える交通の問題が解消されていない。これにより、交流人口が増えず、観光業にも悪影響を及ぼしています。観光客の40%はマイカー移動であり、空港を含めたインフラ整備が進めば、地域間のアクセスが向上し、観光やビジネスの機会も増えると考えています。

昔、米価が2万3,000円／60kgだった頃は商店街で人と肩がぶつかるほど賑わっていた。農家の方の所得も高かつたが、今の米価は40年前よりも低い。インフラと農業は地方の要であり、国からは地方創生をもつと本気になつて考えてもらいたいと思つており、変革できるよう期待しています。

まちの魅力の構成要素は
様々な角度から形作る

A black and white photograph showing two men in dark suits and striped ties seated at a long, light-colored conference table. They are positioned on opposite sides of the table, facing each other. The man on the left is looking towards the right, while the man on the right has his head bowed. In the foreground, a large, ornate bouquet of flowers is centered on the table. The background consists of vertical wood paneling on the wall.

さらに、今、地域間で人口を取り合っている状況が生まれています。鶴岡市から三川町に移住するといった現象が見られるよう、子育てのしやすさをキーワードとした人口の移動争が起きています。しかし、これを批判しても意味がないので、やはり魅力ある地域づくりが重要だと思います。

で、共感しやすい部分もあると想います。20年前、商工会議所青年部は崩壊の危機にありました。当時45歳の卒業を49歳未満まで延ばさなければなりません。悩み抜いた先輩方が多かつた中で、今の青年部がこうして活動を続け、成果を上げてることを本当にありがとうございます。

青年部は時代によってその役割や目的は変化してもいいのではないかと思つております。若いメンバーが様々な事業を開拓し、地域のために頑張っている姿を見て、素晴らしいなと感心しています。

地方分権の話がありましたが、地域主権型社会を目指す平成の大合併以前から人口減少や少子化の問題が議論され、その兆しが見えていたわけですが、現在まではほとんど改善されていないのが現実です。増やすのでではなくどこで止めるのかという議論になつておりますが、人口減少は不可避だと言つていますが、政局・行政

